

ばらんす

第38号

編集発行

大田原市総合政策部
政策推進課 市民協働係
〒324-8641

大田原市本町1-4-1

☎ 0287-23-8715

FAX 0287-23-8748

平成26年度 男女共同参画推進事業者表彰・市民力アップ講演会

表彰に当たり津久井市長より、特にパチンコ業界が選ばれた件について「職業に差別はない、国から許可されきちつと納税されている企業に差異はない。おかしいと差別する考えの方が間違っている。農家出身の私は、泥んこだらけで働いた。カッコ良くないが誇りを持っておる……健全に多くの男女を雇用され貢献されている」と発言された。(主旨)

本年度、大田原市内で男女共同参画推進が評価された事業者は那須赤十字病院、桜護謨株式会社大田原製作所と株式会社ダイナム栃木大田原店の3社である。選ばれた事業者は、いずれも性差による特質を尊重しながら、様々な障壁を取り除く努力が行われ成果を上げておられた。(詳細は4面参照)

1月24日(土)午後、那須野が原ハーモニーホール(大ホール)にて、平成26年度大田原市男女共同参画推進事業者表彰および市民力アップ講演会が行われた。大会では植木実行委員長・津久井市長のあいさつ、事業者表彰に続き、パイプオルガン演奏並びに尾木ママで親しまれる教育評論家、尾木直樹氏の講演が行われた。この催しには約1000人の市民が参加し、専属オルガニストのジャン・フィリップ・メルカールト氏の「美しき青きドナウ」他の演奏と、オネエ言葉で軽妙な語り口の尾木ママ、尾木直樹氏の講演に耳を傾けた。

「ありのままに今を輝く!!」 ～グローバル時代の生き方論～



ダイナミックに音色が変るパイプオルガンの「美しき青きドナウ」は、ワルツのリズムでドナウ川の四季の情景を想い浮かべながら、踊りたくなる演奏であった。

優しい笑顔の尾木ママ・尾木直樹氏が客席中央通路から登場し、驚かせた。
◆今は世界の情報が誰でも入手でき、簡単に発信もできる。一旦ネット上に入力すると、アツという間に世界に発信され、コピーされると永久に消せない。怖いですねー。赤ちゃんが泣くとどうしますか？
「抱いて、あやします」(若い母親)、「ほって置きます。泣くのは赤ちゃんの仕事、元氣な証拠、抱き癖ができる」(昔の母親)正解は、抱いてあげると赤ちゃんの脳波が安定します。
1994年頃から脳科学の進歩で、赤ちゃんにとって何が一番良いか科学的に解かるようになりました。
◆教育も2、3歳くらいが物事に一番興味を持ち、記憶力が一番の時期で語学教育が期待される。しかし反対ですねえ。この頃、赤ちゃんは色々な事柄に興味を持ち観察力が強くなり、お父さんの顔、家族の顔など様々な事柄を知り、親子の信頼関係が育つ時期、大事なこと

オルガンの響きの余韻のなか、女性のような物腰と

ろに蓋をしてはいけません。
◆お母さんの笑顔をお父さんには、お腹にいる時から感じていますよ。4Dカメラをご存知ですか。胎児の赤ちゃんの表情まで分かります。お母さんが笑っていると、胎児の赤ちゃんも笑っている。お姑さんに叱られると赤ちゃんも泣かめ面です。リラクセスした笑顔は大事ですね。脳科学で緊張感を与えると集中力が落ち、リラクセスすると集中力が増えることが分かりました。箱根駅伝で青山学院が「わくわく作戦、そのままの自分を楽しもう」と選手を励まし、歴代最高のタイムで優勝した。育児でも、大人の組織でも誉めて育てる。大事な事は結果ではなく、頑張っている、努力をしているプロセスを誉めることです。それがチャレンジする力を育てる。
◆最後に、大田原の素晴らしい自然環境と同じように、人の繋がりが素晴らしい家庭・地域を築いて下さい。(主旨)
会場から多くの頷ぎと拍手が鳴り響いた講演会であった。



大田原には前田牧場がある!

と言われたい

ミートショップ前田牧場を訪問し、併設するFarmer's Caféで経営者の智恵子さん(昭和44年生れ)と牧場の獣医・順子さん(昭和46年生れ)姉妹にお話を伺った。

お店は奥沢にある前田牧場の直営で、平成14年に開店した。大田原市若草の保健センターに近い331号線沿い。道路際にFarmer's Café、木の奥にミニショップがある。ここは以前農機具店があった所で、建屋を塗り直して使用している。

跡取りの覚悟

平成13年にBSE(狂牛病)が発生し、牛の価格が十分の一まで急落した。

「自分たちの牧場でBSEが発生したわけじゃないのにー」

智恵子さんは、跡取りとして覚悟があった。

「これからは自分達で値段をつけて売りたい!」と肉の直売を決意。新品のスライサーを買い、農機具店の跡地に直営店を開いた。

「姉は後先考ええず、行動するタイプなので…。私は考えに考えてから行動するのですが…」と笑う順子さん。

それでも開店にあたっては、仙台にある肉の直売店を家族で見学に行った。「牛肉を一通り加工しても、売れない部分が出てくる。それを何とか売れるものにし

ていく工夫が必要」とアドバイスをもらい、まずレトルト・カレーを作った。その後ハンバーグなどの商品を増やし、販路も広げていった。

両親の姿をみて

ホルスタイン一頭の飼育からスタートした前田牧場。ホルスタインは量を飼育しないと利益にならない。お父さんの昭さんは、BSE発生の時、牛の飼育をやめる人々もいる中で、頭数を減らすと先細りになるからと逆に頭数を増やし、現在2500頭を飼育する県内でも有数の牧場にした。

「父は、前を見てそしてまた前を見て、仕事を回転させていくのが好きで、ホルスタインにこだわって、いつも牛舎にいる人」

お母さんの悦子さんは「朝早くから夫婦で牛舎にいたので、子供たちが学校に行く姿を見たことがなかった。爺さん・婆さん達に育ててもらったようなもので本当に感謝している」

姉妹は子供の頃、牛舎の周りで遊んでいた。

家族と一緒に

二人とも大田原女子高の卒業生である。

智恵子さんは、数年間宇都宮へ出ていたが、帰郷して牧場を手伝った。

順子さんは卒業後18年ほど大田原を離れ、途中で獣医になってからも、「普通に結婚して…」と考えていた。

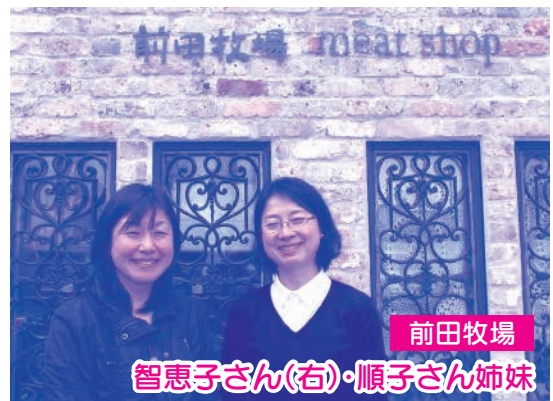
「家業と一緒にとは思っていなかったけど、私が帰省した時、皆楽しそうにやっているのを見て、私も一緒にやってみよう」と父と相談して「牧場の獣医となった」

「でも最近は牛の注射器を握っていないの(笑)」

「大田原は居心地が良い。大学が出来て若い人も増え、便利になった。もう大田原からは離れないでしよう」

「活き活きと働ける場所が出来て、店を開いて良かった」

「今後市外や県外の人にも、大田原には前田牧場がある!」と言われる様になったら良い!」と姉妹の思いがある。



前田牧場

智恵子さん(右)・順子さん姉妹

「地元の前田牧場の名前を知ってもらおう」との姉妹の願いは、道の駅・那須与一の郷や「ト」ト」大田原で前田牧場の製品を手にする人たちを見ると、「それはもう達成しましたね」と思う。

帰りに、那須連山が良く見える金丸の高台に広がる牛舎を見学させてもらった。

牛の敷き藁(バーク)の堆肥をふんだんに入れて耕した土でアスパラガスやブロッコリー、ネギ等様々な野菜類も作っている循環型農場であり、最近はいちご狩りやバーベキューが出来るようになっていた。

シリーズ2

輝

地域初の



スーパーを育てた女性

諏訪工子ノさんは地域初のスーパー(スワストア)の代表取締役会長である。旧日赤前で戸板二枚から二坪の店を開いたのは今から60年前のこと。創業者は勿論工子ノさんである。その後夫の幸四郎さん(故人)、その後を継いで成長された長男次男の二人が、市内に大型店が進出する中で、元町店、西那須野南店を維持し活発に営業し続けている。

現在実務は社長である長男、常務である次男が行い、会長工子ノさんは創業者として、いつも目配り気配りは忘れずいろいろな面から支えている。

スワストアで買い物をする若い人にたった二坪の戸板を並べて始めた店だったと言っても、若い世代の人たちには信じられないと思う。

商売の経験もなかった工子ノさんが家計の足しにと始めた店。スワストアの経営理念は、「店はお客様のためにある」ということだ。社員教育には時間と金を惜しまず、さまざまな勉強会に参加させ、営業に反映させている。現在は時間に余裕もでき、習字や詩吟などの趣味を楽しむときもある。

その他健康にも恵まれ市内の商業活性化のため法人会や商工会議所等の役職も引き受けている。

82歳の現在の思いはすべての人に感謝の毎日であるという。この言葉を地で行く人生を感じさせてくれた生き生きとした人間像を見た。



男女共同参画の推進について

大田原 vs 日光 vs おおひら

11月4日(火)、大田原市女性団体連絡協議会(17名)は日光市男女共同参画推進委員(12名)との交流会で日光市(日光市消防本部)を訪れたが、「おおひら男女共同参画を進める会」(26名)の方たちも参加され3団体の交流となった。

「*ワールドカフェ」方式で3箇所のテーブルを10分くらいで移動しながら多くの方との交流ができた。

男女共同参画の現状として、自治会等の地域活動の中で女性の自治会長、公民館長がほとんど居ない事があげられた。「日光市ではお祭りがありその歴史の中で自治会長が統括を務めてきたので自治会長は男性でなければならない。」との事。「お祭り実行委員会を立ち上げその委員長が統括を務めては？」と提案したが却下されたとの事。「慣習を変えることは歴史を変える事」であり、男女共同参画の実現はまだ難しいと感じたが、変えていかなければならないと思った。小学生、中学生世代に紙芝居や、寸劇などでわかりやすく出前講座をしているという「おおひら」、男女共同参画セミナー等で、全地域に出向いて朗読劇をしているという日光市の話も興味深かった。



*ワールドカフェ・・・ワールド・カフェとは、「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話をを行い、自由にネットワークを築くことのできる「カフェ」のような空間でこそ創発される」という考え方に基づいた話し合いの手法。

「日本女性会議2014 札幌」

～未来の景色は私たちが変える～

大会日程 平成26年10月17日(金)～10月19日(日)
会場 札幌コンベンションセンター(2,000人参加)

大田原市民の研修事業として昨年は海外研修に参加したが、今年は日本女性会議に7名が参加した。

1日目、開会式、基調報告、分科会、交流会が行われた。

基調報告は、男女共同参画局から華房実保さんが行い、結婚、出産で6割が会社を辞めている日本の現状を国際比較をしながら話された。また国の「日本再興戦略の推進」で2020年までに、指導的地位に占める女性の割合を30%にすること等、男女が共に仕事と子育て、介護等を両立できる環境の改善についての対策等を話された。

分科会は10分科会に別れて、シンポジウム、講演、ワークショップが行われ、「現状」「課題」「これから」について参加者と共有できた。

交流会は立食で地元の食材に舌鼓を打ちながら、全国から集まった参加者と活動をしている内容や課題等話し合い、有意義な交流ができた。

2日目、特別講演、記念講演、分科会報告、シンポジウム、閉会式が行われた。

・特別講演 大平まゆみ氏(札幌交響楽団コンサートマスター、ヴァイオリニスト)

子育てをしながら、自分らしく輝く秘訣、音楽が生命にあたるエネルギーについて話された。メンデルスゾーンの姉は彼よりも作曲家として素晴らしかったが女であるがゆえに世に出なかったことなど音楽の世界での男女不平等についての話も興味深かった。

・記念講演 山口香氏(筑波大学体育系准教授、柔道家)

男性社会の風潮が色濃く残っていた柔道界において自らの人生を切り拓いた歩み。男女はその違いを尊重して戦うのではなく共存する事が大切だと「未来の景色」を変える次世代に伝えたいと話された。

・分科会報告 様々なテーマの分科会の内容が聞けてよかった。

・シンポジウム

コーディネーター: 林 美枝子

パネラー : 柿沼トミ子(全国地域婦人団体連絡協議会会長)

: 秀島由香里(札幌弁護士会所属弁護士)

: 長沼 昭夫((株)きのとや 代表取締役社長)

個人の問題は社会の問題、お互いの意識改革、男女問わず選択肢を増やし広げる事、次世代に活躍できる社会作りなど熱く語られた。

閉会式では、2日間のまとめとして大会宣言が行われ、次年度開催地である倉敷市・伊東香織市長のメッセージがあり、日本女性会議2014札幌の幕を閉じた。



平成26年度 男女共同推進表彰事業者の紹介

男女が互いの個性と能力を發揮し働きやすい職場づくりに取り組んでいる事業者が表彰された。表彰の基準は、①性別にとらわれない能力活用、職域の拡大、②仕事と家庭、地域活動などの両立支援、③男女の人権を配慮した職場環境、④その他、男女共同参画社会への積極的取り組みなど、以上4点の項目を評価し模範事業所として、下記3事業者が選ばれた。

那須赤十字病院

◆職業の特徴から比較的女性が多い職場だが、全職員の約25%男性が在席している。看護部に於いても、現在33名の男性看護師が在席し、管理者も看護師長1名、看護係長1名が活躍し、患者さんから「頼もしい。優しい」など嬉しい評価を受けている。◆出産・子育て世代のママとイクメンパパを共にサポートする制度が、幾つかのパターンで考えられている。◆深夜勤務でも、安心して働ける24時間体制の託児所が設けられている。◆院内に8名の委員を設け、仕事と生活の調和を目指すワークライフバランス推進事業に参加している。

桜護謨株式会社大田原製作所

◆消防ホースや航空宇宙機器部品などを製造している事業所である。現在、従業員の中で約2割の45名の女性が働いている。◆出産から育児、介護などライフステージに合わせ、出産・育児・介護休暇、育児・介護短時間勤務制度が設けられている。様々な家庭状況でも働き続けられる職場づくりを目指している。◆近年話題になっているセクシャルハラスメント、パワーハラスメントを防止する為に、匿名の相談窓口(外部専門機関)が設けられ、安心して仕事ができるよう配慮している。

株式会社ダイナム栃木大田原店

◆全社では約9千人の従業員を抱え、全国展開するパチンコホールで30%が女性である。顧客の半数が女性客で、サービスに女性の視点が必要不可欠といわれる。◆女性が安心して、働き続けられる職場環境を目指し、出産・育児休暇、短時間就労、時間外・深夜勤務の免除、子ども看護休暇制度がある。◆メンター制度;上司に相談しづらい事を、一緒に考え、アドバイスし導く制度で、気軽に相談できる先輩を組み合わせた制度で、様々な問題が事前に解決され働きやすい環境となっている。

編集後記

市民力アップ講演会の講師、尾木直樹氏は22年間の教師時代、学級新聞を毎日発行した。ガリ版刷りで前人未踏の4000号である。筆者は、年2回発行の本誌でハイヒールと云っている。志の違いか……。[わくわく]楽しくが集中力が高まるかと教わった。がんばっぺ!(T)

編集委員

岩元 利孝 栗原 敏子
谷辺 範夫 藤沼 久子
(五十音順)